

宇宙基本計画の改定に向けて

野村英子(国立天文台)

○ 全体的な枠組み

- ・ 宇宙開発の中核機関たる **JAXA** の役割・機能の強化
- ・ 人材・資金等の資源の効果的・効率的な活用

→ **JAXA**を中核とした階層化：

民間事業者が参入しやすい環境の整備、特に、技術や情報を提供する仕組みとして、**JAXA**だけでは補いきれない要素をカバーする階層的な構造を構築する (e.g., 国立天文台の**SIC**)

○ 人類の宇宙進出に備えた安全性の確保

- ・ 宇宙天気：太陽活動、宇宙線等、宇宙環境の理解(宇宙観測技術)と医学・心理学分野の融合
- ・ スペースデブリ、プラネタリーディフェンス：宇宙観測技術の活用
- ・ 日本の防災対策の知識が国際的に活かせる？

○ 宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造 (宇宙物理学)

- ・ **Roman**宇宙望遠鏡による居住可能領域の系外惑星探査の進展と**HWO**による第二の地球の探査、および太陽系の普遍性と特殊性の理解
- 大型の海外計画に参画する一方で、国内の地力を強化する取り組み
(独自の技術を持って海外計画に参画するための準備)にも注力する必要

○ 次世代に向けた人材育成、国民理解の増進

- ・ 宇宙を身近に感じられるような仕組みの構築、情報発信、教育
：民間企業との連携